

拝啓 今年も早や7月下旬となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今の時期は、むくげが咲いているほか、シロツメ草、ブタクサ、にせだいこんなどのいわゆる雑草が咲いています。わが家の玄関のプランターでは、ペチュニアが元気よく、赤、白、紫のきれいな花を咲かせています。

今回は、小西芳之助先生の『わが主イエスよ—恵心流キリスト教・説教集—』の8回目で、「第9講 死に勝つ生涯（その1）」の9ページ、「私の生活について」という項には、次のように書かれています。

「何遍も言うとおりの、「生きらば称名、このままで」ですから、生きて「わが主イエスよ、わが主イエスよ」とこのままで言ったらいい。私の「このまま」という字は、Just as I am. そうですから、悲しい時、苦しい時、そのままで「わが主イエスよ」と言う。僕でもできますよ。可能です。朝起きたら「主イエスよ」と床で称えて起き上がる。御名を称えて今日も歩まんと。そうですから「わが主イエスよ、わが主イエスよ」とこのままで言う」

苦しい時、調子の悪い時もありますが、その中で、「わが主イエスよ」と呼べ、ということ。 「常住坐臥時節の久近を問わず」調子の悪い時は、そのままの沈んだ気分で、称名せよ、ということです。

7月6日(土)は、村野憲政さんら3人で、お台場の臨海公園を訪ね、散歩しましたが、良い散歩道でした。潮風公園の一部が工事中でしたが、オリンピックに向けて整備しているのだと思いますが、出来上がれば、ずいぶん大きな立派な公園になるでしょう。

わが家の次男でニューヨークに住んでいる一家が、我が家に滞在(今は短期間タイに行っていますが)、家族4人が増えました。小学校2年の女の子と、3歳の男子の孫の相手で、プールに行ったり、恐竜博覧会に行ったり、新しい子供の世界に触れています。

7月24, 25日には、本誌読者の佐藤昭夫さん、松本健さんと3人で、群馬県の赤城山に行きました。赤城山は、初めてでしたが、大沼のほとりを夕日のきれいな時散歩したり、黒檜山は結構急な山でしたが、展望を楽しむことができ、下山して角満淵という沼のほとりも散歩し、大いに楽しんできました。バークレー先生が、パレルゴンという言葉で、何か息抜きになる楽しい趣味が、大切だと書かれています。私にとって、山と童謡の会は、本当にパレルゴンになっています。

今年は、本当に長い梅雨でしたが、やっと本格的な夏がやって来たようです。どうぞ皆様も、お身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

2019年7月27日

山口周三

エンカウターの読者各位